

国際関係論研究における個人データの活用の可能性

芝井 清久 データ科学研究系 特任助教

■ 国際調査データによる国際社会の多様性をつかむ。

文化的背景の異なる国家のデータを集め、その特徴と変化を明らかにすることを目指す。

移民、テロなど国際情勢の急激な変化を追い、社会の実情をつかむことが、国際問題を解決するために非常に重要になっているため(空間的つながりと時間的つながりの重要性)。

- 国際社会の多様性をつかむためには可能な限り多くの地域からデータを得る必要があり、また情勢変化が著しい国際社会の変化を測るためにも継続してデータを取得することが重要。
- 国際関係論研究はマクロレベルの国家データの使用が主流であり、個人から得るマイクロレベルのデータを使用した研究は多くは無い。この2種類のデータを併用した研究方法の確立を目指す。

■ 文化的背景によって異なる国民性の多様性の例

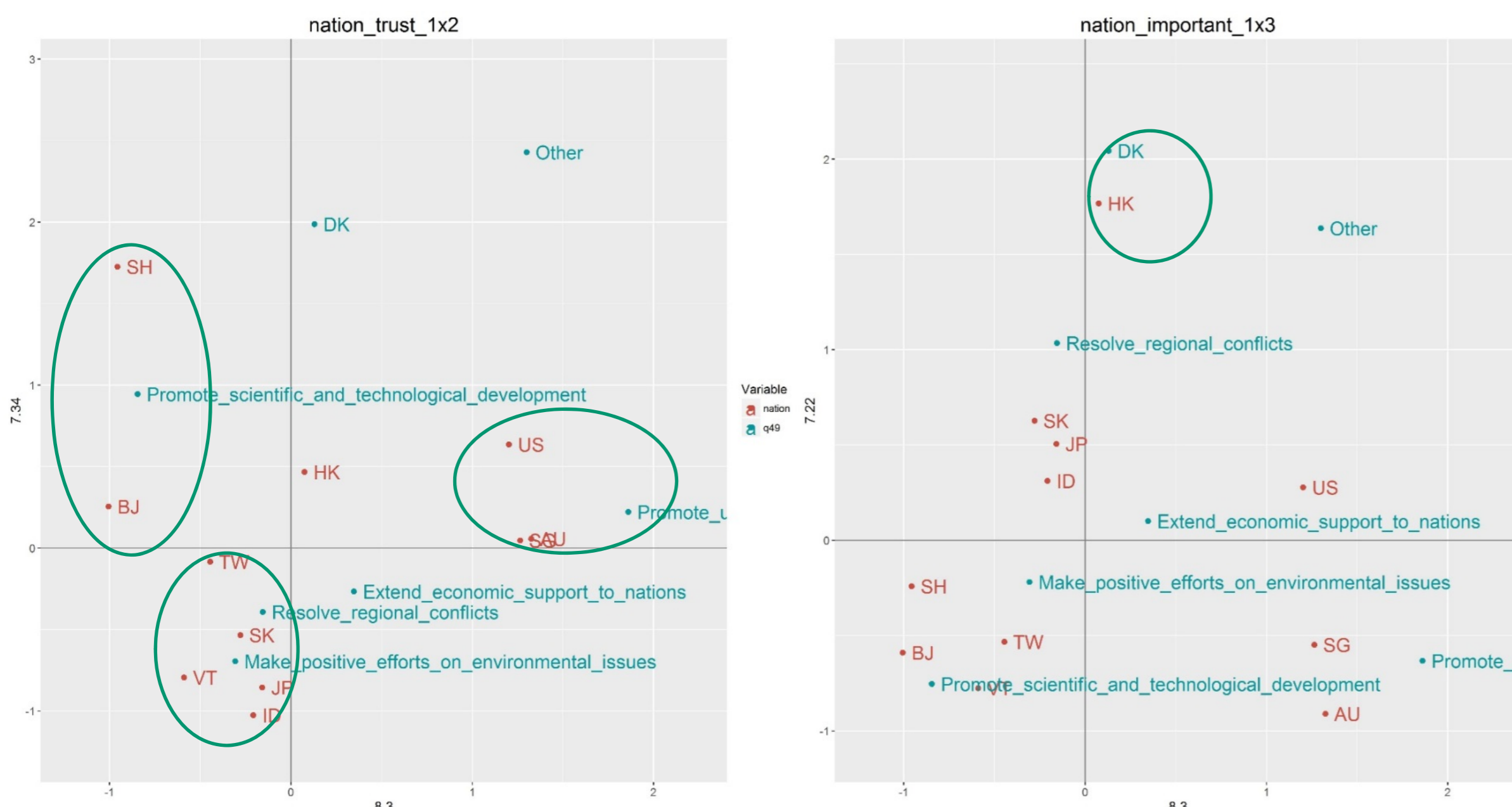
国際貢献で重視すること(APVS2010-14の間49)

「科学技術の発展」と北京、上海が近い。【共産主義中国の二大都市】

「異文化・宗教間の相互理解」とアメリカ、シンガポール、オーストラリアが近い。【移民の多い国家が集中】

「地域紛争の解決」「環境問題に取り組む」と台湾、韓国、ベトナム、日本、インドが近い。【インド以外は単一民族に近い国家】

香港のみ3軸で見るとDKと近い。



■ 文化の違いに関わらず共通して存在する価値観の例

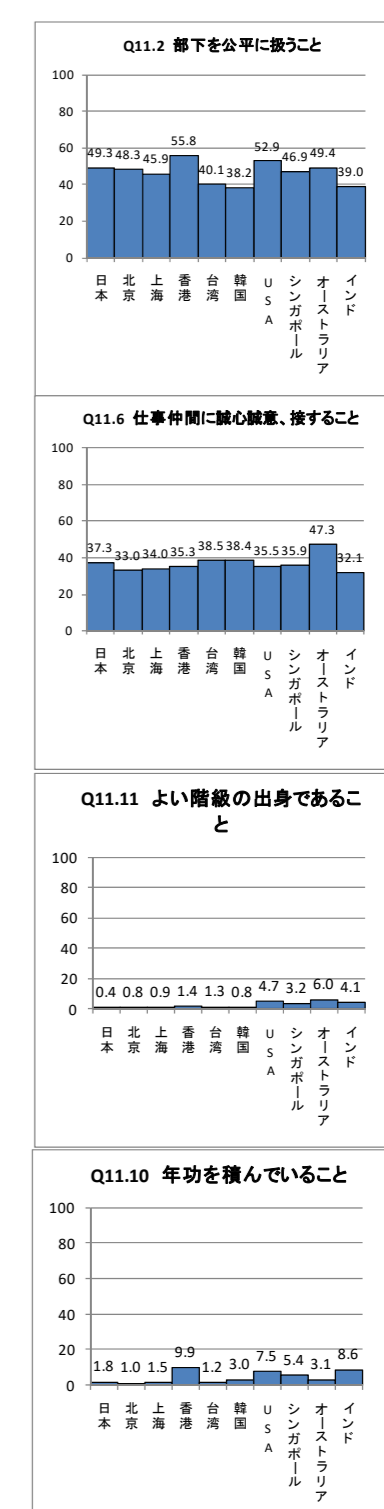
職場の良きリーダーはどんな資質を持っているべきか(PRVS2004-08の間11)

「部下を公平に扱うこと」は全ての地域でTop3入り。

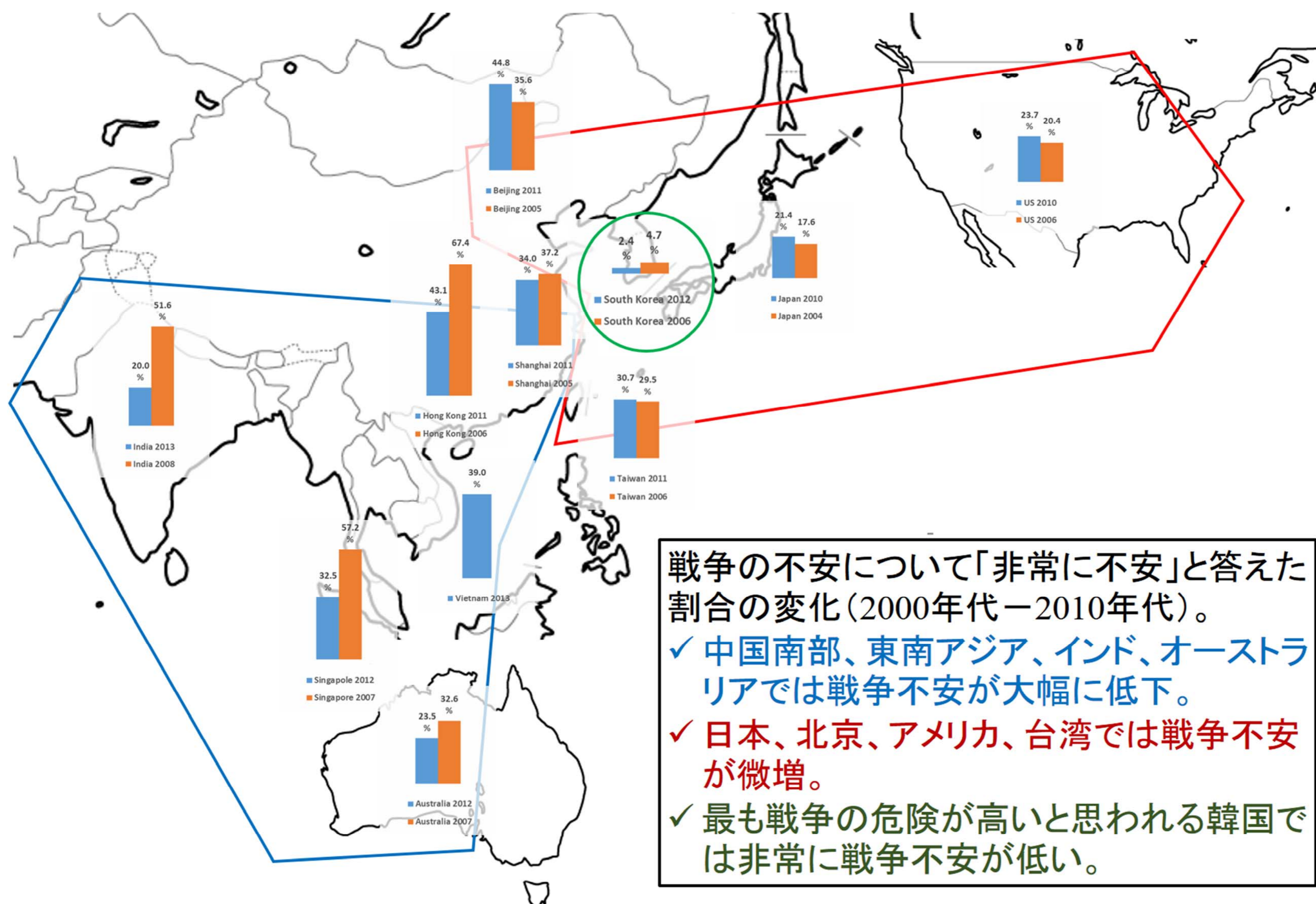
「仕事仲間に誠心誠意、接すること」は全ての地域で3~4割。

「年功を積んでいること」「よい階級の出身であること」は、ほぼ全ての地域でWorst 1, 2位。

APVS	1st	2nd	3rd
Japan	Good judgment	Serious attitude toward work	Fair in treating subordinates
US	Good judgment	Fair in treating subordinates	Serious attitude toward work
Beijing	Fair in treating subordinates	Technical competence	Ability to bring great benefit to subordinates
Shanghai	Fair in treating subordinates	Technical competence	Sincere in attitudes toward co-workers
Taiwan	Fair in treating subordinates	Ability to bring great benefit to subordinates	Sincere in attitudes toward co-workers
Hong Kong	Fair in treating subordinates	Good judgment	Sincere in attitudes toward co-workers
South Korea	Being liked and respected by subordinates	Sincere in attitudes toward co-workers	Technical competence
Australia	Good judgment	Fair in treating subordinates	Sincere in attitudes toward co-workers
Singapore	Sincere in attitudes toward co-workers	Fair in treating subordinates	Have many friends/acquaintances
India	Technical competence	Serious attitude toward work	Sincere in attitudes toward co-workers
Vietnam	Technical competence	Serious attitude toward work	Fair in treating subordinates
Total	Fair in treating subordinates	Sincere in attitudes toward co-workers	Technical competence



国際情勢の変化にともなう戦争の不安感の変化



戦争の不安について「非常に不安」と答えた割合の変化(2000年代-2010年代)。
 ✓ 中国南部、東南アジア、インド、オーストラリアでは戦争不安が大幅に低下。
 ✓ 日本、北京、アメリカ、台湾では戦争不安が微増。
 ✓ 最も戦争の危険が高いと思われる韓国では非常に戦争不安が低い。

- 2003.1 北朝鮮がNPT脱退
- 2006 7月 ミサイル発射実験 10月 初の核実験
- 2008 10月 米国がテロ支援国家指定を解除
- 2009 5月 第2回核実験 10月 大青海戦
- 2010 3月 天安沈没事件 11月 延坪島砲撃事件
- 2011末 金正日死亡
- 2012 2月 米朝合意 4月 長距離弾道ミサイル発射
- 2013 2月 第3回核実験
- 2014 3月 中距離弾道ミサイル発射